

第4回
NTT空手道連盟
全国選手権大会

日時 平成11年10月31日(日) AM 9:30~PM3:00
場所 NTT東海体育館

主催 NTT空手道連盟
主管 NTT東海空手道部

ご挨拶

写真

NTT空手道連盟
会長 浅田 和男

NTTグループの空手道愛好家の皆様のご賛同とご協力のもと、「第4回NTT空手道連盟全国選手権大会」がNTT東海体育館において開催できますことは非常に意義深い事であり、心よりお慶び申し上げます。

空手道は、格調ある武道としての性格と近代スポーツとしての要素を兼ね備えた競技であります。技の持つ魅力もさる事ながら、身体の鍛練と心（人格）の涵養に重きをおいており、健全な人間形成に大きく貢献しているところであります。

本大会において、日頃から切磋琢磨した空手道の技と精神力を遺憾なく発揮しあうとともに、会員相互の交流を深めていただきたいと思います。

さて、NTT空手道連盟は、設立以来地域の空手道愛好家の発掘に勤めています。

しかし、NTTグループ及び関連会社の中には、未だ連盟に加盟されていない空手道部も多々あると思われます。是非、本連盟に加盟していただき、多くの愛好家の参加のもと、さらに「NTT空手道連盟」が発展していくことを期待してやみません。そのためにも関係各位の格段なるご協力を賜りたいと考えております。

おわりに、この度の第4回NTT空手道連盟全国選手権大会の開催に際しましてご支援、ご協力いただきました関係者の皆様方に厚く御礼を申し上げますとともに、本大会が皆様のご健闘により実り多き大会となりますことを心より祈念してあいさついたします。

大 会 役 員

大 会 会 長	浅田 和男	(NTT西日本社長)
大 会 副 会 長	星野 肇夫	(NTTエレクトロニクス)
大 会 副 会 長	山口 晃生	(NTT神戸支店)
実 行 委 員 長	青島 忍	(NTTデータ)
実 行 副 委 員 長	山崎 俊正	(NTTデータ)
実 行 副 委 員 長	小野 勇	(TE東京専用サ - ビス事業部)
実 行 委 員	中嶋 晋二	(TE関西大阪東支店)
実 行 委 員	原 元一	(NTT港支店)
実 行 委 員	浅野 兼章	(NTTデータ)
実 行 委 員	高野 誠	(NTT西日本研究開発センタ)
実 行 委 員	佐藤 秀美	(NTT西日本大阪支店)
実 行 委 員	野口 悦男	(光エレクトロニクス研究所)
実 行 委 員	古里 秀人	(コムウエア九州)
実 行 委 員	土田 淳一	(仙台支店)
大 会 幹 事	石原 肇	(コムウエア東海)
大 会 幹 事	土田 肇	(NTTデータ)

審 判 団

大 会 審 判 長	中 嶋 晋 二	(神 戸)
大 会 副 審 判 長	藤 田 拓	(デ ー タ)
監 査 長	原 元 一	(東 京)
審 判 監 査	小 野 勇	(東 京)
審 判 監 査	奥 野 隆 久	(神 戸)
審 判 員	石 坂 智 己	(東 京)
審 判 員	森 田 稔	(東 京)
審 判 員	山 角 修 一	(鹿 児 島)
審 判 員	佐 藤 秀 美	(神 戸)
審 判 員	玉 利 誠 義	(神 戸)
審 判 員	奥 野 紀 美 子	(神 戸)
審 判 員	青 島 忍	(東 海)
審 判 員	石 原 肇	(東 海)
審 判 員	古 里 秀 人	(九 州)
審 判 員	今 野 正 忠	(東 京)

大会次第

大会プログラム

第一部 開会式

- 1、選手入場
- 2、開会の辞 大会実行委員長 青島 忍
- 3、国旗遥拝
- 4、大会会長挨拶 大会会長 浅田 和男
- 5、来賓祝辞
- 6、優勝杯の返還
- 7、審判注意 審判長 中嶋 晋二
- 8、選手宣誓 NTT神戸空手道部・前田 英也
- 9、選手退場

第二部 試合

- 1、形試合
 - ・個人 予選1回戦(8名残し)
- 2、組手試合
 - ・個人有段の部 1～3回戦(2名残し)
 - ・個人段外の部 1～3回戦(2名残し)
 - ・団体組手の部 1回戦

第三部 演武

演武

- ・NTTデータ空手道部
- ・東京空手道部
- ・九州空手道部
- ・通研空手道部
- ・神戸空手道部
- ・東海空手道部

<昼食>

第四部 試合

- 1、組手試合
 - ・個人有段の部 3位決定戦
 - ・個人段外の部 3位決定戦
 - ・団体組手の部 3位決定戦

第五部 決勝戦

1、形試合

・個人 優勝・準優勝・3位

2、組手試合

・個人有段の部 優勝・準優勝

・個人段外の部 優勝・準優勝

・団体組手の部 優勝・準優勝

第六部 閉会式

1、役員・選手整列

2、表彰式

3、形試合

・個人形試合 優勝・準優勝・3位・敢闘賞

4、組手試合

・個人組手試合有段の部 優勝・準優勝・3位・敢闘賞

・個人組手試合段外の部 優勝・準優勝・3位・敢闘賞

・団体組手試合 優勝・準優勝・3位

5、大会講評 NTT空手道連盟常任理事 小野 勇

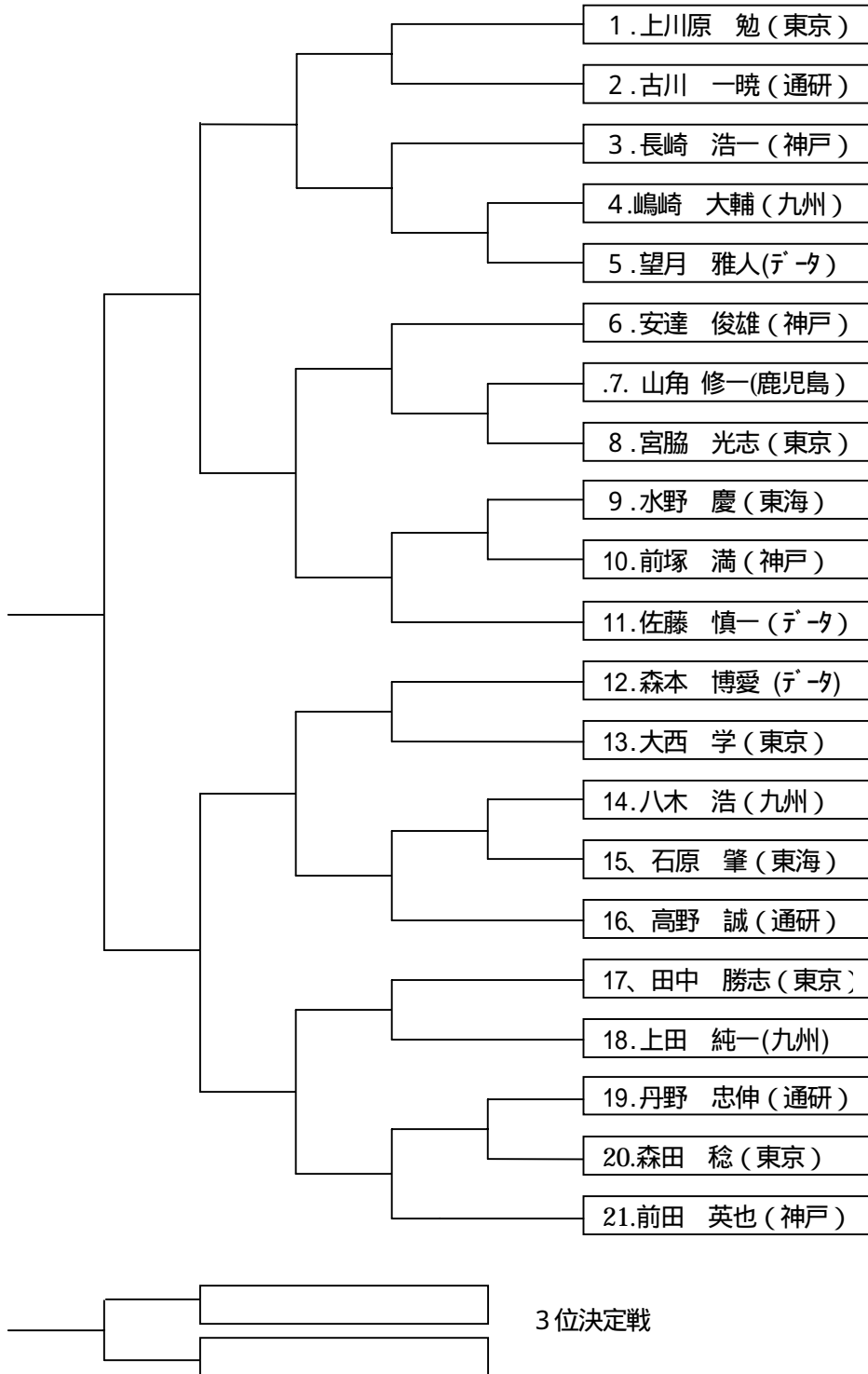
6、閉会の辞 NTT空手道連盟常任理事 山崎 俊正

個人形試合

No.	氏 名(所属)	得点 (予選)	得点 (決勝)
1	足立 尚美 (神戸)		
2	門永 絵美里 (九州)		
3	今野 正忠 (東京)		
4	長崎 浩一 (神戸)		
5	佐藤 慎一 (データ)		
6	田中 勝志 (東京)		
7	松下 友紀 (東海)		
8	高野 誠 (通研)		
9	奥野 紀美子 (神戸)		
10	嶋 勝弘 (四国)		
11	上川原 勉 (東京)		
12	佐野 範久 (東海)		
13	原 元一 (東京)		
14	山崎 俊正 (データ)		
15	奥野 隆久 (神戸)		
16	宮崎 加奈 (九州)		
17	大西 学 (東京)		
18	古川 一暁 (通研)		
19	土田 淳一 (東京)		
20	菅江 武 (データ)		
21	森田 稔 (東京)		
22	荒木 裕之 (東海)		
23	宮脇 光志 (東京)		
24	森本 博愛 (データ)		
25	荒木 真奈美 (東海)		
26	森田 賢二 (データ)		
27	斎藤 正 (通研)		
28	山角 修一 (鹿児島)		

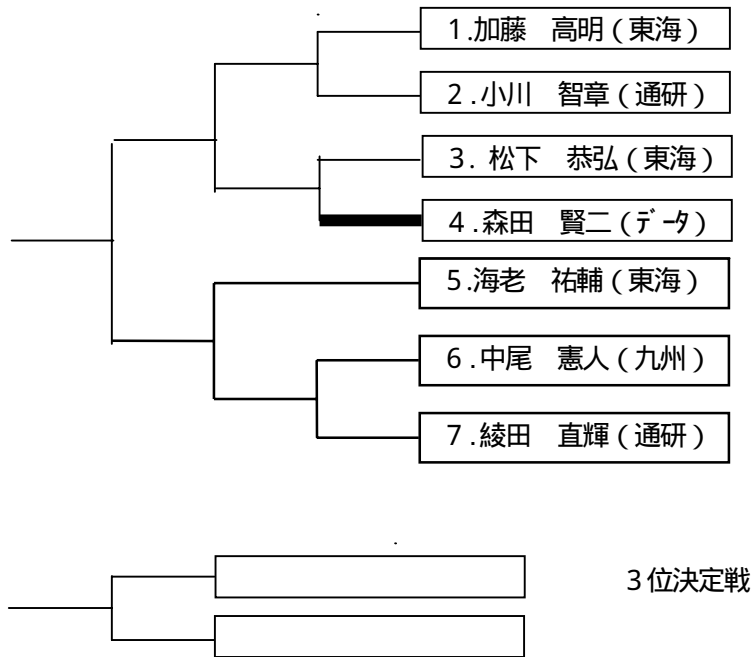
個人組手試合

有段の部

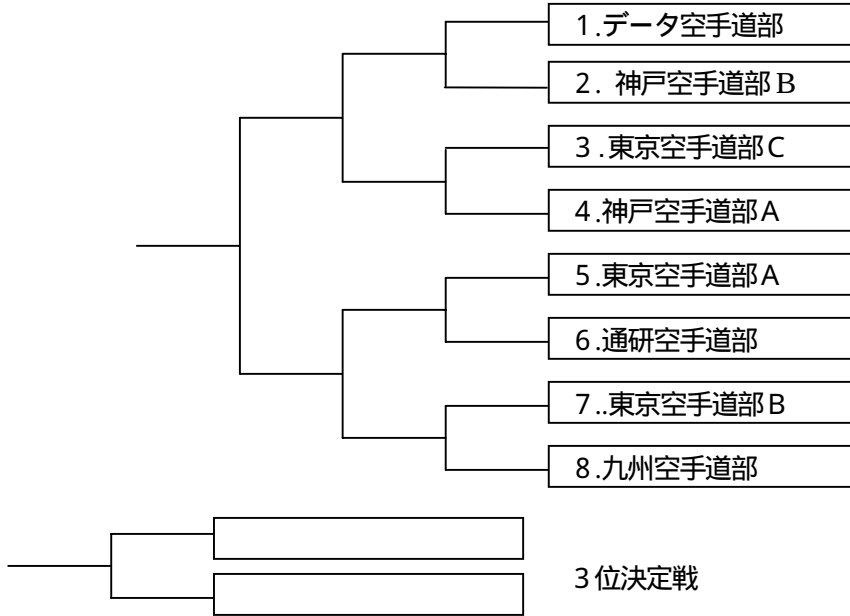


個人組手試合

段外の部



団体組手試合



東京空手道部 A		
監督	参段	宮脇 光志
大将		宮脇 光志
中堅	四段	上川原 勉
先鋒	弐段	大西 学
補欠		
補欠		

東京空手道部 B		
監督	五段	山崎 俊正
大将		山崎 俊正
中堅	参段	今野 正忠
先鋒	初段	田中 勝志
補欠	三級	森田 賢二
補欠		

東京空手道部 C		
監督	六段	小野 勇
大将		小野 勇
中堅	六段	原 元一
先鋒	参段	森田 稔
補欠		
補欠		

神戸空手道部 A		
監督	四段	前田 英也
大将	五段	中川 譲二
中堅	四段	安達 俊雄
先鋒	四段	前田 英也
補欠	五段	奥野 隆久
補欠		

神戸空手道部 B		
監督	四段	長崎 浩一
大将	四段	前塚 満
中堅	四段	梅村 洋平
先鋒	四段	長崎 浩一
補欠	五段	奥野 隆久
補欠		

データ空手道部		
監督	五段	菅江 武
大将	弐段	佐藤 慎一
中堅	弐段	森本 博愛
先鋒	弐段	望月 雅人
補欠	五段	山崎 俊正
補欠	三級	森田 賢二

通研空手道部		
監督	参段	高野 誠
大将		高野 誠
中堅	初段	古川 一暁
先鋒	初段	丹野 忠伸
補欠	二級	小川 智章
補欠		

九州空手道部		
監督		古里 秀人
大将	四段	上田 純一
中堅	弐段	嶋崎 大輔
先鋒	初段	八木 浩
補欠		
補欠		

N T T 空手道連盟全国選手権大会成績表 (1 / 2)

第一回	平成 8 年度 1 1 月 3 日 N T T 中央研修センタ	主幹： 本社通研空手道部 東京空手道部	優秀選手 (敢闘賞)
個人組手	優 勝	安達 俊雄 (関西)	
	準優勝	前田 英也 (関西)	
	3 位	佐藤 慎一 (東京)	
	4 位	長崎 浩一 (関西)	
個人形	優 勝	奥野 紀美子 (関西)	
	準優勝	奥野 隆久 (関西)	
	3 位	宮脇 光志 (東京)	
	4 位	大西 学 (東京)	佐藤 慎一 (東京)
団体組手	優 勝	東京空手道部	
	準優勝	関西空手道部	
	3 位	本社通研 B	
第二回	平成 9 年度 1 1 月 2 日 N T T 鈴鹿研修センタ	主幹： 関西空手道部	
有段組手	優 勝	安達 俊雄 (関西)	
	準優勝	佐藤 慎一 (東京)	
	3 位	森本 博愛 (東京)	
	4 位	長崎 浩一 (関西)	
段外組手	優 勝	海老 裕輔 (東海)	
	準優勝	村田 英樹 (関西)	
	3 位	樋口 嘉成 (関西)	
	4 位	矢野 政彦 (東海)	
個人形	優 勝	森本 博愛 (東京)	
	準優勝	宮脇 光志 (東京)	
	3 位	服部 初男 (東海)	
	4 位	奥野 隆久 (関西)	奥野 紀美子 (関西)
団体組手	優 勝	東京空手道部	
	準優勝	関西空手道部 A	
	3 位	本社通研	

N T T 空手道連盟全国選手権大会成績表 (2 / 2)

第3回	平成10年度 11月1日 NTT中央研修センタ	主幹： 本社通研空手道部 東京空手道部	優秀選手（敢闘賞）
有段組手	優勝	前田 英也（関西）	
	準優勝	中川 譲二（関西）	
	3位	長崎 浩一（関西）	
	4位	高野 誠（通研）	
段外組手	優勝	海老 祐輔 東海	
	準優勝	小川 智章（通研）	
	3位	加藤 高明（東海）	
	4位	窪田 紀彦（東京）	
個人形	優勝	森本 博愛（データ）	
	準優勝	佐藤 慎一（データ）	
	3位	奥野 隆久（関西）	
	4位	奥野 紀美子（関西）	大西 学 宮脇 光志（東京） 土田 淳一（東北）山角 修一（鹿児島）
団体組手	優勝	NTTデータ空手道部	
	準優勝	通研空手道部A	
	3位	東京空手道部	
	4位	関西空手道部A	

第4回 NTT 空手道連盟全国選手権大会実施規則

第一条 (目的)

本規則は、第4回 NTT 空手道連盟全国選手権大会(以下「大会」という。)を実施するにあたり、その準拠となる事項を定め円滑な大会運営に寄与する。

第二条 (大会運営)

大会の運営にあたっては、大会実行委員長がこれを統括する。この際、大会実行委員長は、大会運営に必要な事項を行使するとともに、これと同等の責任を負う。

また、大会の運営を円滑に進めるために以下の係をおく。

大会総務	大会設営	記録
受付、接待	選手	時計
進行、放送	救護	掲示
式典、表彰	大会ドクター	進行

第三条 (審判)

- (1) 大会審判長は審判団を構成する。
- (2) 主審は公認審判資格、又は会派団体の資格を有するもの。
- (3) 審判服装は長袖ワイシャツ、ネクタイ、各地区・団体ブレザー、ズボンにグレー黒のクツ、又は素足とする。(服装は審判長が指定する。)
- (4) 団体組手防具付きの主審は道衣と袴、副審はワイシャツでもよい。
- (5) 審判団の構成、審判規則については、理事会でこれを決定する。

第四条 (大会監査)

各地区の師範が監査役をつとめる。理事会で要請する。

第五条 (競技規定)

- (1) 防具付きは防具試合規定、審判規定
- (2) 全日本空手道連盟試合規定、審判規定
上記規定に則り行うが、本連盟規定を準用する。

第六条 (組手試合の方式ならびに時間)

個人戦 (全空連方式)

- (1) 勝負...3本勝負。(6ポイント)
- (2) 時間...2分間(フルタイム)
- (3) トーナメント方式により行う。(3位決定戦まで実施する)
- (4) 安全具、メンホー、拳サポータ、金カップを着用。
- (5) マウスピース、胴プロは自由使用。
- (6) 審判の人数は主審1、副審4とし、副審は4コーナーに配置する。

団体戦 (防具付)

- (1) 勝負...1本勝負。(2ポイント)
- (2) 時間...2分間(フルタイム)
- (3) 1チーム3名で構成する。

- (4) トーナメント方式により行う。(3位決定戦まで実施する)
- (5) 勝者とポイントが同数の場合、代表決定戦を行う。
- (6) 負傷等で交代した場合、その選手は出場できない。
- (7) 監督と選手をかねることができる。
- (8) メンバー表はその都度提出する。提出後の変更は不可。
- (9) 審判の人数は主審1，副審4とすし、副審は4コーナに配置する。

第七条(型試合の方法と形の指定)

- (1) 点数で得点表示
- (2) 基準点は6～8点。(試技を行い点数の統一を計る、演武順最後の選手により試技)
- (3) 自由形でよい。選で上位8名を選出し、決勝戦を行う。(参加人数により変更あり)
- (4) 同点の場合順位決定戦、紅白旗で表示、形は同じ形でよい。
- (5) 審判の人数は主審1，副審4とし、副審は4コーナに配置する。
- (6) 決勝戦の演武順はゼッケン順とする。

第八条(団体組手、防具の審判規定)

競技における攻撃の禁止事項を下記のように定め、違反者は(反則負け)とする。
但し、軽懲の違反者に対しては(反則注意)の警告を申し付ける。

- (1) 攻撃の禁止事項
 - ・股間部への攻撃
 - ・継続的な組み合い
 - ・関節技
 - ・強引な投げ技
 - ・体当たり技
 - ・背面よりの攻撃
 - ・気合以外の人格を無視するような言葉
 - ・競技に関連しない時間の浪費(技を取った後の時間かせぎ等)
- (2) 場外の基準は競技者が競技場の外のラインを出た場合とする。但し、不測の事態により、体位が競技場の外側の線を出たと認定される場合はこれを除く。
(副審は場外の宣言を旗をまわして行わなければならない)
- (3) 失格の基準は次のごとく定める。
 - ・競技の継続を拒否、または放棄した場合。
 - ・審判の判定を不服とし、審判員に直接抗議した場合。
 - ・競技中、主審の指示に従わぬ場合。
 - ・指定時間内に入場していない場合。
- (4) 副審の任務
 - ・組手競技においては、主審の判定宣言に従い紅白の旗を用いて競技の判定を表示する。
 - ・組手競技中、的確に攻撃技を確認した場合、旗を用いてその旨を表示する。

- ・組手競技者の負傷、場外、転倒、死角位置、及び競技の継続が不可能と認めた場合、旗及び、呼び笛を用いて表示する。
- ・主審の招集に従い、自己の意見を述べる。

第九条（選手の呼び出し）

選手係が3回呼び出しても選手が不在の場合は、原則として相手方の不戦勝とする。

第十条（事故時の責任）

- （1）大会実行委員会では試合等における事故の場合応急処置を行う。
- （2）選手は保険証を持参、大会全体で傷害保険に加入をする。
- （3）救急病院の把握（住所、電話番号、診療時間、診療科目等）

第十一条（ゼッケン）

- （1）個人戦のゼッケンは各地区で準備する。（組手：黒，型：赤で表示）
- （2）組手＝黒
- （3）形＝赤で表示
- （4）寸法は自由（縦26・横18cm位）

第十二条（その他の確認事項）

- （1）全空連方式の場合、道衣の袖、裾はまくらない、女子のヘアピン等は外す。
- （2）テーピングは事前に主審の許可を得る。攻撃強化や競技を中断させるようなものは不可。
- （3）色は白、肌色、負傷及び再発防止のための包帯、サポータは使用可。
- （4）道衣は白無地一色とし、左胸に会派、所属のマークは着用可。
- （5）メガネは使用禁止、コンタクトは各自の責任で使用可。
- （6）反則技は、理事会、審判団会議で再確認を行う。
- （7）監督、審判、選手を兼ねることができる。
- （8）組手個人戦、団体戦で判定が分かれた場合、副審を呼び協議することができる。
- （9）審判団は組手の3位決定戦、準決勝、決勝、形の決勝で再編成する。
- （10）自地区選手の主審は極力外れる。

第十三条（競技種目）

- （1）組手個人戦（段）（全空連方式）
- （2）組手個人戦（級）（全空連方式）
- （3）形（段）（全空連方式）
- （4）形（級）（全空連方式）*H10年、第三回大会より種目追加
- （5）団体組手（防具付規定）*H10年、第三回大会より1チーム3名とする。

第十四条（その他）

- （1）この規定は、平成8年11月4日に制定
- （2）平成9年9月25日改定（安全具、金カップ義務に、形、予選の実施）
- （3）平成10年10月1日改定（団体戦5名から3名、段外の形を種目に）
- （4）第三条の（4）項、審判員の服装の統一は検討事項に。（2回大会時）

NTT空手道連盟規約

平成7年7月27日 制定

平成7年11月5日 改訂

平成9年11月2日 改定

第一章 総則

(名称)

第1条 本連盟は「NTT空手道連盟」と称する。

(目的)

第2条 本連盟は空手道の研さんにつとめ、人格の向上及び身体の鍛錬を行い、もって良識ある社員の育成を図ることを目的とする。

(活動)

第3条 本連盟は第2条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- (1) 空手道大会(以下「全国大会」という。)の開催
- (2) 組織の空手道愛好者の活動状況の把握及び指導
- (3) その他、目的達成に必要な活動

第二章 組織

(構成)

第4条 本連盟はNTT社員(元社員を含む)及び関連会社社員の空手道愛好者をもって構成する。

(組織)

第5条 本連盟は次の組織とする。

NTT空手道連盟

|

各職場等における組織(地域組織(各職場等)において適宜組織する。)

第三章

(役員)

第6条 本連盟は次の役員をおく。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 顧問 若干名
- (4) 常任理事 若干名
- (5) 理事 若干名
- (6) 幹事 若干名
- (7) 事務局長 1名
- (8) 会計監査 2名

(役員の仕事)

第7条 役員は次の仕事を行う。

- (1) 会長は本連盟を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はその仕事を代行する。
- (3) 顧問は本連盟の重要事項に関し、会長の諮問に応ずる。
- (4) 常任理事は本連盟の運営に関し、指導助言を行うと共に理事会を運営する。

- (5) 理事は各組織の長として地域組織を代表し、会務を統括し、理事会に出席し議決権を行使する。
- (6) 幹事は理事会等の開催にあたりその設定を行う。
- (7) 事務局長は会長、副会長及び常任理事を補佐し、幹事会ならびに事務局を運営する。
- (8) 会計監査は本連盟の会計を監査する。

(役員を選出)

第8条 役員は推挙及び選出は次による。

- (1) 会長及び副会長は理事会で推挙する。
- (2) 顧問は理事会の推挙により会長が委嘱する。
- (3) 常任理事は理事会で推挙する。
- (4) 理事は各組織で推挙する。
- (5) 幹事は地域組織の選出によるほか、理事会において若干名の幹事を選出する。
- (6) 事務局長は幹事会で選出する。
- (7) 会計監査は全国大会開催地から選出し、会長が委嘱する。

(役員任期)

第9条 役員任期は1年とする。但し、再任は妨げない。

第四章 期間

(会議)

第10条 本連盟は次の会議を開催する。

(1) 理事会 理事会は本連盟の最高意志決定機関とし、会長が必要に応じて召集する。その他必要に応じて開催することができる。但し、やむを得ない場合は、電話で協議決定することができる。

(審議事項)

第11条 理事会は次の事項について審議し、出席者の過半数をもって議決する。

- (1) 本連盟運営上の重要事項
 - (2) 前年度の活動報告及び会計報告
 - (3) 新年度の活動方針
 - (4) 規約の制改訂
 - (5) 役員推挙及び選出
 - (6) その他
- 2 幹事会は次の事項について審議し、出席者の過半数をもって議決する。
- (1) 理事会に付議する事項
 - (2) 全国大会の運営概要(但し「大会実施要領」に定めのあるものを除く)
 - (3) その他本連盟の運営に関し、本規約の定めのない事項

(事務局)

第12条 本連盟の運営を行うため、N T T本社または事業本部に事務局をおく。

- 2 事務局の運営は、事務局長があたる。
- 3 事務局には必要な事務担当者をおく。

第五章 会計

(経費)

第13条 経費

第14条 本連盟の会費は1組織毎に年額10000円とする。
(会計年度)

第15条 本連盟の会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

第16条 全国大会運営の一助とするため「基金」を別途設置する。

第六章 各組織(空手道部)等 (各空手道部の組織、運営)

第17条 各空手道部は、本連盟の主旨に基づく組織を確立し、適正な運営を行い、活発な活動を展開する。

第七章 全国大会 (全国大会の開催)

第18条 全国大会は次により年1回開催する。

(1) 全国大会の開催は、各地域組織持ち回りとし、主幹地域組織は前年度理事会において決定する。

(2) 全国大会の運営概要については、「全国大会実施要領」による。

(3) 運営に関する細部事項については、実情に即した形で行う。

付則

本規約は平成 7年7月27日から施行する。

参考

改訂履歴

[1] 平成7年11月5日

(1) 第14条

旧 会費

新 本連盟の会費は1組織毎に年額10000円とする。

[2] 平成9年11月2日

(1) 第6条

旧 (5) 理事 12名

(6) 幹事 1名(当面)

新 (5) 理事 若干名

(6) 幹事 若干名

N T T 空手道連盟役員

役職	所属	氏名
会長	代表取締役社長 N T T 西日本	浅田 和男
副会長	N T T 神戸支店 経理部	山口 晃生
副会長	N T T エレクトロニクス	星野 肇夫
顧問	N T T 特別顧問	宮脇 陞
顧問	広島工業 関西支店	大谷 好明
顧問	工学院	浅谷 耕一
顧問	N T T ドコモサービス 関西支社	後山 昭雄
顧問	日本シスコム 関西支店	小西 祥夫
顧問	N T T 移動通信網 研究所	野島 俊雄
常任理事	N T T T E 関西 大阪東支店 第三設備	中嶋 晋二
常任理事	N T T T E 東京 専用サ - ビス事業部	小野 勇
常任理事	(株) N T T データ	山崎 俊正
理事	光エレクトロニクス研究所	野口 悦男
理事	N T T コムウェア東海支社	石原 肇
理事	N T T 西日本 大阪支店	佐藤 秀美
理事	東日本港支店お客様サービス部	原 元一
理事	N T T コムウェア九州	古里 秀人
理事	(株) N T T データ	浅野 兼章
理事	仙台支店長町営業担当	土田 淳一
幹事	N T T 西日本研究開発研究センタ	高野 誠
幹事	関西資材調達センタ	池辺 幸弘

部 員 名 簿

本社・通研空手道部

厚木部長 竹村章七
 武蔵野部長 廣峰鎮雄
 横須賀部長 名和卓良
 師範 浅谷耕一
 師範 泉和人
 師範 星野肇夫
 師範 野島俊雄
 師範代 野口悦男
 師範代 大谷幸司
 師範代 佐々木秋穂
 師範代 高野誠
 指導員 栗本栄治
 指導員 山本了清
 指導員 坂野寿和
 指導員 葉玉寿弥
 指導員 堀田英一
 主将 坂野寿和
 主将 丹野忠伸
 主将 古川一晧
 副将 葉玉寿弥
 松浦洋
 河野健治
 中村圭介
 直井昌明
 田代豊
 樋口一茂
 富永哲
 深野秀樹

中村信孝
 柴田信太郎
 木村直宏
 松井知子
 田中弘一
 F. ボンド
 パテルオリエ
 荒木孝広
 今井哲朗
 坂本和久
 山田竜二
 龍野剛一
 柴田美知夫
 衆樹敏光
 小笠原定治
 小野大泰
 松浦洋
 松本三千人
 須崎泰正
 石井健司
 前大道浩之
 村上秀美
 平野章
 高木大助
 木村直宏
 野村博昭
 矢原太司
 牧村隆司

龍城武志
 林智定
 川村実
 菊池幸二
 Rebecca Shia
 布川和俊
 Katherine Curtis
 荒英雄
 鳴海弥生
 ヤコブ・ロイター
 高橋徹
 加賀谷真二
 成田大助
 浅倉保
 網屋一也
 酒井統史
 木内章博
 藤原真秀
 岡本武之
 山口治
 河田直樹
 綾田直輝
 石村秀樹
 金尾りんな
 斉藤 正
 高木 茂
 西川 正
 宮内 美樹
 加藤和利

東京空手道部

首席師範 小川秀青
 顧問 今松夫
 顧問 金城盛要
 顧問 阿波連本修
 顧問 井口伸之
 顧問 伊藤恒雄
 顧問 浅野春夫
 顧問 青木操
 師範 小野勇
 師範 原元一
 師範 柴田智敬
 師範 永坂和春
 師範 木村和雄
 師範 内村元美
 指導員 石坂智巳
 指導員 森田稔
 指導員 今野正忠
 部員 大西学
 梅内浩之
 宮脇光志
 田中西崇

山田尚司
 牛尾浩
 磯貝博基
 高橋秀之
 前田太
 笹田紀彦
 久保正樹
 山口祐司
 藤井郁子
 落合久子
 其他哲子
 鈴木智美
 藤本聡
 飯田敏晃
 北村彰郎
 横森昭文
 松崎忠文
 田中勝志
 奥山博祥

花塚誠
 小川登
 土田淳一
 加茂光昭
 秋本勝生
 高橋文夫
 青木秀雄
 附柴主
 桑原一志
 荒木勇夫
 竹松功雄
 武田和美
 佐藤正夫
 大越和好
 山角修一
 田中種穂
 小原伸文
 前田光弘
 後藤太樹

東京空手道部(続き)

嶋勝弘
平井肇
神田裕二
村井健二
酒井利夫
長田薫
華井昭良
多屋舗裕
柿崎寿

高橋伸悦
山口勝巳
中林知成
川越勝彦
田中康雄
上川原勉
内村之重
木村諭

その他
大学部OB会
218名

東海空手道部

監督 石原肇
会計 矢吹正宏
指導員 青島 忍
指導員 土田 肇
指導員 服部初男

佐野範久
松下恭弘
市川賢二
加藤寿夫
矢野政彦
竹野明伸
加藤高明

海老裕輔
水野 慶
吉田拓也
白井信義
小瀬木 健
松下友紀
丹生谷信仁

神戸空手道部

部長 山口晃生
総監督 中嶋晋二
監督 佐藤秀美
指導員 玉利誠義
指導員 奥野隆久
マネージャ 佐藤秀美
主将 前田英也

前塚 満
上田政広
芥子寿和
安達俊雄
長崎浩一
山川貴史
樋口嘉成
高田健年
神辺元司

事務局
事務局

梅村洋平
中川譲二
足立尚美
谷口善福
中川 肇

九州空手道部

会長 緒方憲男
特別顧問 高橋正明
顧問 小原隆典
部長 溝下満徳
師範 古里秀人
師範 内村元美
指導員 上田純一
指導員 大浦新一
指導員 門永充弘(事務局)

松波洋一
芝田幸紀
島崎大輔
田中武徳
田中 保
宮川忠一

八木浩
門永絵美里
田中伸吾
田口浩基
門永久瑠美
岩崎有香
大矢満里奈
森翔太郎

東北空手道部

指導員 土田淳一
指導員 大友勝男
加瀬谷守
金野慎

NTTデータ空手道部

部長 藤田 拓
顧問 西田 巖
顧問 菅江 武
師範 山崎 尊則
師範 山崎 俊正
師範 青島 忍
指導員 浅野 兼章

部員

立花 幸賢
二瓶 好美
二瓶 烈
大洞 健治郎
藤吉 修
秋本 守真
藤咲 善信
森本 博愛
佐藤 慎一
森田 賢二
矢口 浩史

坂巻 賢一
望月 雅人
古屋 昇
岩淵 広和
渡辺 孝昭
細見祥子
菱田 秀幸
山田 浩貢
土田 肇
杉山 久典
岩波 言祐
片岡 祥子

鹿児島空手道部

部長 井尻 文男
顧問 児玉 恒夫
監督 山角 修一
会計 山口 勝己
指導員 桑原 一志
指導員 立山 洸

部員

西田 寿朗
満尾 博行
赤木 栄一郎